

四四

						保存期限
大臣		政務 次官		参第九六〇號		受領 番號
主務 局長		高級 副官		起元廳(課)名		件名
主務 課長		主務副官 官房御用掛		陸軍技術本部		式十三耗高射機関砲準制式制定ノ件
主務課員		書記官		筆記者		案
主務 局長		主務 局長		決行(決裁)後 回覽課名		政務次官 回付 決裁 前後連帶 課名
主務 課長		主務 課長		決行(決裁)後 回覽課名		永年 〇〇年
主務 課長		主務 課長		決行(決裁)後 回覽課名		永年 〇〇年
主務 課長		主務 課長		決行(決裁)後 回覽課名		永年 〇〇年

陸

副官ヨリ技術本部長へ通牒

首題機関砲十一月二十三日附陸技本甲第六五三號
上申ノ通定メラルヘキニ付該圖面百拾部送付セラ
レ度

陸書第七四五八號

昭和八年三月四日

右圖面送付アリタル後左案決行相成度

副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ通牒

首題機関砲別紙圖面ノ通準制式制定セラレ
シニ付該圖面 部送付ス

陸書第三六一號

昭和九年一月廿五日

昭和九年三月二日

式十三耗高射機関砲

配試表

配試箇所	部数	配試箇所	部数
兵器局	一	臺灣軍	一
教育總監部	八	關東軍	一
兵器本廠	一	要務部	(二七)各一
造兵廠	四五	支那駐屯軍	一
技術本部	六		
航空本部			
築城本部			
附屬(除第二、第三、第四)	(二三)各一		
第二師團	二		
第三師團	二	計	五五

圖面添付

陸技本甲第六五三號

「ホ」式十三耗高射機關砲準制式制定相成度件上申
昭和八年十一月二十二日 陸軍技術本部長 緒方 勝

陸軍大臣 荒木 貞 夫 殿

首題砲審査終了シタルヲ以テ別圖ノ通準制式トシテ制定相成度別紙細目名稱表概
説竝審査經過ノ概要相添へ上申ス

添 附 書 類

一、「ホ」式十三耗高射機關砲準制式兵器圖

自第一葉
至第二葉
屬品表

壹 部

二 同

細目名稱表

貳 部

三 同

概 説

貳 部

四 同

審査經過ノ概要

貳 部



軍

「ホ」式十三耗高射機關砲審査經過ノ概要

昭和八年十一月
陸軍技術本部

一、審査起源ノ大要

大正九年七月二十日參第三九八號兵器研究方針ニ基キ昭和三年十一月高射ヲ主トシ平射ニモ使用シ得ヘキ「ビ」式〇、五吋D型機關砲ヲ「ビ」社ヨリ購入シ彈道性及機能試験ヲ實施セルモ其成績十分ナラサリシヲ以テ審査ヲ打切り別ニ昭和四年四月「ホ」式十三耗双聯高射機關砲仕様書ヲ呈出ス

二、審査經過ノ概要

- 1、昭和四年十二月現品到着シ審査ヲ開始ス
- 2、昭和五年一月伊良湖射場ニ於テ彈道性、機能及彈藥試験ヲ實施シ射距離十五百米以下ノ地上射表及高射射表編纂資料ヲ得ルト共ニ機能ノ良否ヲ實驗シタル結果概ネ處期ノ成績ヲ收メ精度良好ニシテ高射ニ適スルモノト認ム（昭和五年三月）
陸軍技術部
- 3、昭和五年三月明野飛行學校ニ於テ吹流射撃ヲ實施シ高射ノ實

用價值ヲ試験シタル結果成績次ノ如シ

(イ) 砲架及照準具ハ概ネ高射ノ實用ニ適スルモノト認ム

(ロ) 吹流射撃ニ於テ射距離十米以下ニアリテハ概ネ百分ノ一ノ命中彈ヲ得

(ハ) 射距離十五百米附近ニ於テハ集束彈道ヨク目標ヲ獲フヲ以テ照準具ハ適當ナルモノト認ム

(ニ) 高射ニ於ケル觀測ハ曳光彈最モ適當ナリ

將來ノ處置

(イ) 高射ニ於ケル命中率ハ射撃諸元ノ精度射法及特ニ訓練ノ度ニ關スルコト大ナルヲ以テ將來成シ得レハ十分ノ彈藥ヲ以テ適當ナル部隊ノ實用試験ニ附シ研究スルヲ可トス

(ロ) 照準具ハ航路角附與裝置ニ於テ平均十密射角附與裝置ニ於テハ最大約三密ノ定誤差ヲ有シ此程度ノ誤差ハ射撃ノ精度上不問ニ附スルヲ得サルモノナルヲ以テ將來ノ製作ニ方リテハ注意改良セシムルヲ要ス

(昭和五年五月)
陸技壹號報三

生、昭和六年五月富津射場ニ於テ「五地積」「ウーズレー」自動貨車ニ取付ケテ行フ運行及射撃試験ヲ實施セル結果次ノ如シ
 (イ) 約二百軒ニ亘ル運行試験ノ結果ハ砲架及砲ノ諸機能ニ何等ノ故障ヲ認メス

(ロ) 車射撃ノ命中精度ハ地上射撃（本然ノ三脚架ニヨリ行ヒタル射撃）又ハ車框ヲ扛起シタルモノノ（車框以上ヲ全然扛起シ車框下ニ支材ヲ設ケ車体發條ヲ無力トナシテ行ヒタル射撃）何レヨリモ良好ナリ

○、昭和七年五月前述試験ノ結果ニ基キ細部ノ修正意見ヲ加味セル仕様書ヲ調製シ兵器本廠ニ送付シ之ニヨリ注文シ整備セラル
 ○、昭和七年十二月細部修正ヲ實施セル砲二門ヲ兵器本廠ヨリ借用シ野戦砲兵學校ニ實用試験ヲ委託セシニ對空射撃用トシテ實用ニ適ストノ判決ヲ得
 （昭和八年五月廿九日）
 野砲校 第五六六號

右諸試験ノ成績概ネ良好ニシテ實用ニ適スルモノト認メ得ルヲ以テ

0493

茲ニ準制式トシテ上申ス



陸軍

「ホ」式十三粒高射機關砲概説

昭和八年十一月
陸軍技術本部

一、目的

主トシテ防空用トシテ使用シ兼テ平射ヲモナシ得又射撃姿勢ノ隨自動實貨車上ニ車載シ車上射撃ヲモ爲スコトヲ得

二、構造

射撃スルニハ照準手、射手及彈藥裝填手ヲ要シ照準手ハ目標ノ飛行方向、航速直距離ニ應スル修正ヲナシ射手ハ坐來ノ高低及方向ノ轉把ヲ操シ眼鏡ニヨリ航空機ヲ射撃ス

砲架ノ兩側ニ左（右）砲ヲ裝載セル双聯式トシ兩砲同時若ハ一砲宛發射シ得ルモノニシテ砲、砲架、照準具及屬品ヨリ成リ豫備砲身ヲ附屬ス

上、砲ハ砲身、尾筒、床尾、砲尾機關及裝彈機關ヨリ成ル

砲身ハ前、中、後三箇ノ放熱筒ヲ嵌裝シ瓦斯漏孔ヲ設ケ照星、瓦斯唧筒、規整子及消焰器ヲ附隨ス

尾筒ハ前方ニ砲身ヲ螺著シ内部ニ砲尾機關ヲ包藏シ上方外部ニハ裝彈機關ヲ

結合シ照尺及鐵子ヲ附隨ス

床尾ハ尾筒後端ヲ閉塞シ復坐ばね軸、引鐵、引鐵ばね坐、床尾駐栓及引鐵連動桿ヲ附隨ス

砲尾機關ハ橫桿、活塞、復坐ばね、圓筒、閘子、連結子、擊莖、抽筒子及抽筒子ばねヨリ成ル

裝彈機關ハ裝填架、裝填架駐栓、彈倉止、彈倉止轉把、圓筒駐子及彈倉ヨリ成リ彈倉ハ匣型ヲ成シ三十發ヲ收容ス

2、砲架ハ三脚式トシ搖架、小架及三脚架ヨリ成ル

搖架ハ砲ヲ裝載シテ小架ニ結合シ他結合桿、歪板、搖架軸及連結桿坐ヨリ成ル

小架ハ搖架ヲ承ケ三脚架ニ結合セラレ小架軸、小架軸筒、方向照準機、平衡機、射手坐、踏板坐、照準臂坐駐坐、照準臂坐及高低照準機ヲ附隨ス小架軸ハ小架ト小架軸筒トノ間ニ介在シテ之ヲ結合セシム小架軸筒ハ軸筒、大齒圈小齒圈、齒輪、同軸筒、緊定螺（左右）、底蓋、方向分靈器、水準器、電球匣ヨリ成リ小架ノ回轉ヲ掌ルモノニシテ左右ノ緊定螺ニヨリ適度ノ緊度ヲ保

タシム又水準器ヲ附シ砲据置ニ便シ電球匣ヲ備ヘ方向分畫ノ看讀ヲ容易ナラシム

方向照準機ハ永轉螺軸筒、永轉螺蓋螺、永轉螺、轉把軸筒、連結軸及轉把軸ヨリ成リ小架軸筒ヲ回轉セシム平衡機ハ小架軸ニ裝シばね筒、ばね軸、ばね坐筒及ばね(大小)ヨリ成ル射手坐ハ支桿及騎坐ヨリ成リ射手ノ体軀ニ應シ之ヲ伸縮シ得踏板坐ハ支桿、踏板、踐板、及押桿ヨリ成リ射手ノ体軀ニ應シ之ヲ伸縮シ得押桿ハ踐板ノ運動ヲ小架ノ擊鐵ニ傳フルモノトス照準臂坐駐坐ハ照準臂坐ヲ小架ニ結合スル部トス照準臂坐ハ弧形ヲナシ照準具ノ照準臂ヲ結合ス高低照準機ハ永轉螺軸筒、圓台齒輪、轉把軸筒、轉把軸及緊定螺ヨリ成リ搖架ヲ俯仰セシム

三脚架ハ架頭、脚ヨリ成リ扛起機及駐抗ヲ附隨ス架頭ハ小架軸筒ヲ承ケ三箇ノ脚ヲ裝著シ脚ニハ踵鐵ヲ設ク扛起機ハ各脚ニ附著シ永轉螺、扛起螺ヨリ成リ砲耳軸ノ傾斜ヲ修正ス駐抗ハ三箇ヨリ成リ踵鐵ニ挿入ス

8、照準具ハ照準臂、基板、修正筐、航路轉把、航速轉把、射距離轉把、眼鏡托架、眼鏡及連結桿ヨリ成リ砲架ニ裝著スルニハ後方ハ照準臂ヲ照準臂坐ニ

前方ハ連結桿ヲ連結桿坐ニ結合シ以テ平行四邊形ヲ成シ砲身軸ノ修正ニ伴ヒ
照準臂軸ノ軸周ニ回轉ス

基板ハ連結桿ト照準臂トニ支ヘラレ修正箇ノ坐ヲ成シ射距離轉把ヲ附ス

修正箇ハ体及昇降坐ヨリ成リ昇降坐ニヨリ基板ヲ昇降シ体ニハ航路轉把及航
速轉把ヲ裝著ス眼鏡托架ハ眼鏡駐坐、上方平行桿、下方平行桿、指向桿軸筒
ヨリナリ修正箇ニ聯繫シ眼鏡ヲ保持ス眼鏡ハ体、對物鏡筒及接眼筒ヨリ成ル
「コリマツール」式眼鏡ニシテ倍率ハ一トシ焦點鏡ニ十字線ヲ附ス連結桿ハ
上端ヲ基板ニ下端ヲ搖架ニ結合シ他身軸ノ移動ヲ承クル部トス

今航路轉把ヲ以テ目標ノ航路角ヲ航速轉把ヲ以テ目標ノ航速ヲ射距離轉把ヲ
以テ直距離ヲ其々與フルトキハ平行桿ノ機構上ニ設ケラレタル眼鏡托架ハ如
上ノ修正量ニ應シテ作動ス故ニ之ヲ眼鏡ニヨリテ目標ヲ照準スレハ即チ求ム
ル射擊方向ヲ示スモノトス

4、屬品トシテ照準具匣、砲屬品匣、照星復、水準器、分解用具、手入用具及
豫備品、藥莢拔、打殼拔、砲架屬品匣、電池匣、器具匣及彈倉匣ヲ備フ

三、主要諸元

全備重量	砲重量	砲架重量	照準具重量	口徑	初速（各種彈藥）	發射速度（左右各砲）	最大射程	最高射界	方向射界	彈藥種類	鋼心彈侵徹威力
------	-----	------	-------	----	----------	------------	------	------	------	------	---------

三八〇呔	八〇呔	二八〇呔	二〇呔	一三、二呔	約八〇〇米	四五〇發	約六〇〇〇米	約三五〇〇米	正八五度 負五度	三六〇度	普通彈、鋼心彈 曳光彈、燒夷彈	厚サ二〇呔鋼板ヲ 二三〇米ヨリ貫通
------	-----	------	-----	-------	-------	------	--------	--------	-------------	------	--------------------	----------------------

陸軍

曳光距離

曳光彈約一四〇〇米
燒夷彈約一二〇〇米

右彈藥八九二式重載十三托倭關他彈藥ニ同シ



参第九六〇

陸技本甲第二五號

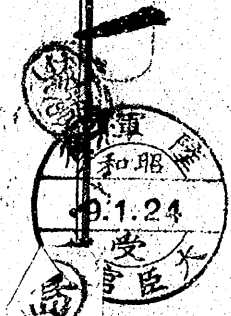
「ホ」式十三耗高射砲圖面竝概説送付ノ件通牒

昭和九年一月二十三日 陸軍技術本部副官 横井 爲男

陸軍省副官 牛島 満殿

客年十二月四日附陸普第七四五八號通牒ニ係ル首題ノ圖面竝概説（圖面參枚）
概説貳枚
各百拾通送付ス

追テ現品ハ陸普番號押捺ノ上銃砲課へ直送可致ニ付承知セラレ度



昭和九年一月廿四日

陸



軍

保存期限	決裁指定	決行指定
------	------	------

政務次官 同付 決裁 前連帶
參與官 後課名

決行（決裁）後
回覽課名

[illegible]

0502

官房

件

審案
筆記者

2090

本案決行相成度
三月三日
官房御中
統
統
標

陸 普 副官ヨリ別紙配賦表、箇所へ通牒
 首題細目名稱表別紙、通定メラレシニ付
 送付ス

追テ本細目名稱表配賦区分ハ九二式車載十三粒
 機関砲彈藥ト同様ニシテ且九一式車載輕
 機関銃ノ次ニ綴込ムヘキモノニ付申添フ

細目名稱表ハ別紙原稿ニ依リ官房ニ於テ六〇部
 印刷相成度

圖書第一四七四號

昭和九年三月十三日

昭和九年四月九日

本表は中米書ハ戦時用トス

兵器製造金庫表「式十三」高射機開砲

配賦表

配賦箇所		配賦箇所	
大臣官房	二	陸軍省	九
軍務局	三	経理學校	一
整備局	二	侍從武官	一
兵器局	三	憲兵司令部	二
参謀本部	一	近衛師團	一
教育總監部	一	第一師團	一
兵器本廠	三	第二師團	一
造兵廠	五	第三師團	一
技術本部	一	第四師團	一
築城部本部	一	第五師團	一
航空本部	五	第六師團	一

